

風水害のしくみと情報伝達

毎年恒例のごとく日本列島に襲いかかる台風。できることは、危険な場所や時期を知り、対策を練ることである。

雨の強さと降り方

1	やや強い雨 1時間に10～20mmの雨	雨の音がよく聞こえ、地面一面に水溜りができます。雨が長引く場合には、注意が必要です。
2	強い雨 1時間に20～30mmの雨	どしゃ降りの雨。傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、かけ崩れの心配があります。
3	激しい雨 1時間に30～50mmの雨	バケツをひっくり返したような雨。かけ崩れもおこりやすく、道路規制も行われます。避難の準備を。
4	非常に激しい雨 1時間に50～80mmの雨	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。水害の発生の可能性大。
5	猛烈な雨 1時間に80mm以上の雨	息苦しくなるような圧迫感を受ける雨。大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

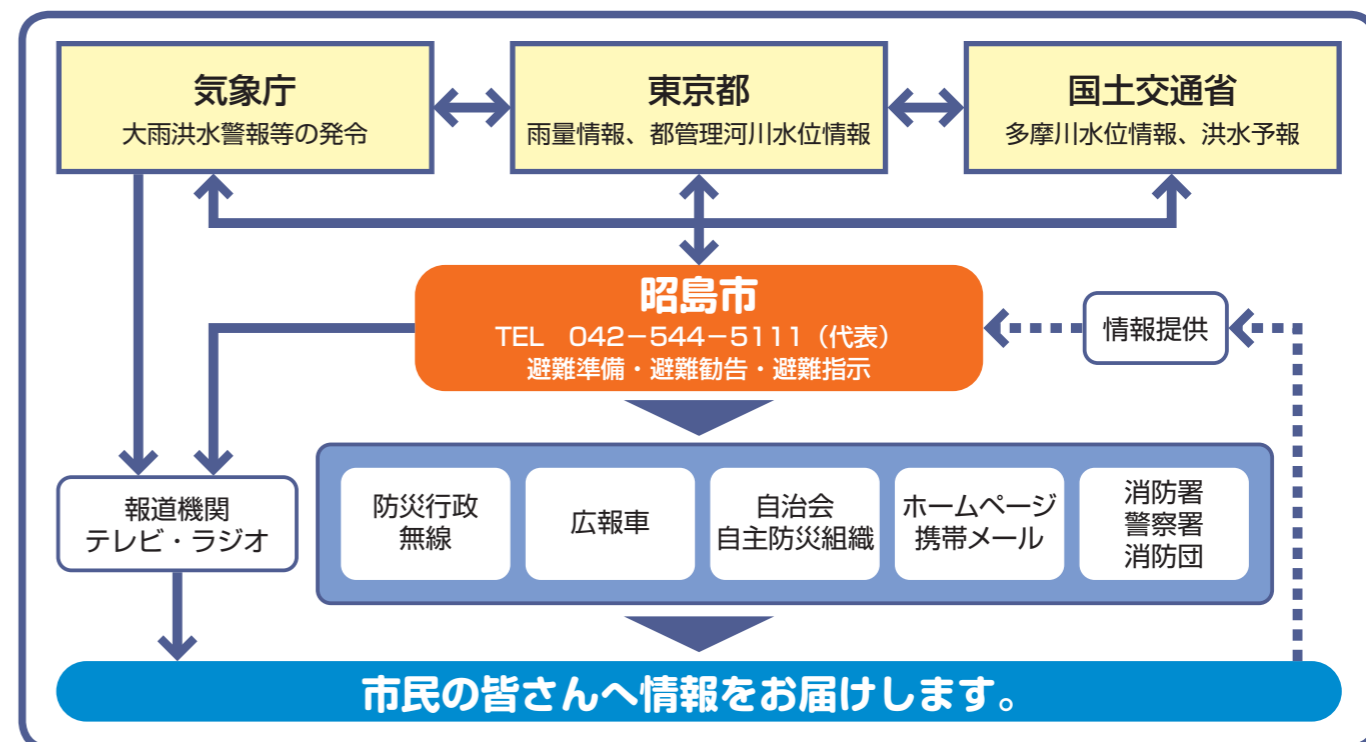
警報と注意報の発表基準

種類	予想される災害	発表基準となる雨量		
		1時間雨量	3時間雨量	24時間雨量
注意報	大雨注意報	30mm以上	70mm以上	130mm以上
	洪水注意報			
警報	大雨警報	50mm以上 かつ総雨量 80mm以上	90mm以上	200mm以上
	洪水警報			

洪水時における避難情報の種類

種類	発令時の状況
避難準備情報 (要援護者避難)	<ul style="list-style-type: none"> 災害時要援護者など、特に避難行動に時間を要する方が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった状況。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> 通常の避難行動ができる方が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> 前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。 堤防の隣接地等、地域の特性等から人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。 人的被害の発生した状況。

洪水予報等における避難情報の伝達方法



気象情報の収集

気象庁天気予報サービス
http://www.jma.go.jp/jp/yoho/

国土交通省防災情報提供センター (降水量・雨雲)
http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/
携帯 http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html

東京アメッシュ (降雨情報・東京都下水道局)
http://tokyo-ame.jwa.or.jp/

国土交通省京浜河川事務所 (多摩川の雨量・水位)
http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/
携帯 http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/m

東京都水防災総合情報システム
http://www.kasen-suibo.metro.tokyo.jp/
携帯 http://www.kasen-suibo.metro.tokyo.jp/k/